



414  
A 733



松方マツカタ加那土カナツチ兩氏談話ノ拾録

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

日本工業渚場等ヲ巡見シタキモノトカ工業ノ事ヲ  
報告スルトカ云フ咄シノ序ヨリ 加貴カキタ マンチエマンチエストル  
工場ヲ御覽ジマシタロウね左様デコサル 那ノ時ハ劇場  
ハ御誘引ガアルヤラ市會シカイニテ饗宴ニ招カル、ヤエヤエ減ヘニ  
懇切ナル待款ヲ受ケマシテ感謝ニ余ル次第デアリマシタ  
加僕モ羨リマシタ彼ノマンチエストルノ市會、兼テ我外  
務省ヨリ日本政府ハ税則改正ノヲヲ欲スルニ付右ニ関  
スル報告書類ヲ添へ如何ノ見込モアルカラ下問シテアリ  
又央ニ理財ノ權アル貴キ々ケ未車ミクルマノ趣ヲ傳ハタカラ外務省  
辺ニテモ待遇ノ事ニ注意シマシタロウシ彼是禮讓ヲ尽シ  
タフト思ヒマス マンチエストルノ工業者ハ日本テ高稅ヲ課セ



ラレントスルトテ恐レテ居ルシ且報告等ノ景況ヲ見マシレ  
ハ余程重キヨウニ有ルシ殊ニ昔日物貨ノ高キ項ノ五部  
税ハ今日低價ノ物品<sup>ノ</sup>為ニハ一割ニ至當ルベケレハ過量ノ  
税<sup>テ</sup>ハゴザラヌカ<sup>松</sup>ノイヤ中ニ左様<sup>テ</sup>ハゴザラヌ日本現行ノ関  
税ハ他ノ國ニ比スレハ低税ニシテ名有テ實ナキ程ノ<sup>テ</sup>ゴザ  
ル故物々ニ執テ今一層税率ヲ増シ歳入ノ幾分ヲ増補ス  
ル旨意<sup>テ</sup>ゴザル今欲スレ程増税シタリトテ輸入ヲ減スル  
ノ貿易ヲ衰<sup>シ</sup>ムルノト申ス様ノ事ハ數理ニ由テゴザラヌ此  
ノ事ニ執テハ既ニ我大藏卿ガパークス氏<sup>ハ</sup>懇々内諮<sup>アツ</sup>  
タ<sup>テ</sup>ゴザルガ統計表ニ由テモ知ル<sup>ト</sup>通り從來貿易ノ  
景況ヲ見ルニ年ハ年ヨリ増シテ決シテ減スルノ<sup>ト</sup>ナシ故  
ハ我人民ハ回來ノ束制ヲ解カレ夫役ノ事ヲ止<sup>ラ</sup>レ内地  
税ヲ減セラレタルカラ漸次緩<sup>ミ</sup>ガツキ衣食ノ貨品共ニ自

然善美ナルモノヲ買フノ裕餘ガ出来タノト輸入品ハ概  
シテ美ニシテ且低價ナルカラ<sup>テ</sup>ゴザル且ツ内外凡ソ同  
質ノ品ヲ比較シテ其ノ價ノ相場ヲ細カニ調<sup>バ</sup>マスルニ輸  
入品ノ方が格別ニ低價<sup>テ</sup>ゴザリマシレハ多少増税ノ為メ  
貿易ヲ妨<sup>ゲ</sup>ヌ道理ハ詳細調査シテ述べマシタニパー  
クス氏ニモ夫レニハ格別ニ異論モナカリシカニ美<sup>ッ</sup>テ居  
リマスガ貴外務省ニハ疾クニ報告ニ成リタ苦ト存ジマスガ  
美<sup>ニ</sup>知<sup>ハ</sup>ゴザリマセヌ歟 敢テ不答 コウ云フ<sup>テ</sup>ゴザリマシ  
テ工業者ノ抱念スル程ノ<sup>ト</sup>テモナシ為メニ貿易ノ衰<sup>ハ</sup>ル<sup>ト</sup>  
ハ萬々ゴザラヌカラ其點ニ是安心<sup>アツ</sup>テ望<sup>ム</sup>ノ達スル様日  
本ノ為メニ貴<sup>タ</sup>オ<sup>モ</sup>是<sup>レ</sup>心<sup>被</sup><sup>リ</sup>願<sup>ヒ</sup>マス 加<sup>イ</sup>ヤ夫レハ  
是尤ノ事<sup>テ</sup>ゴザル<sup>ル</sup>夫<sup>ケ</sup>分<sup>限</sup>丈<sup>ケ</sup>ハ是<sup>レ</sup>力<sup>尽</sup>シマシヨウ  
併シ我政府ノ成立ト申モノガ政府計<sup>ニ</sup>美<sup>認</sup>シタ<sup>リ</sup>迎<sup>議</sup>院

アリ高業會所アリマンチエストル辺ノ會社如何申立シモ  
難計ケレハ政府ノ特断トモ參り兼マシヨウカ殊ニ僕シ  
輩ハ權ノ輕キモメニテ何事モ政府ノ命令ヲ取次往復  
報告スル位ノ事ニテ全權ニハ何事モ任セザレバ其報告  
ノ如キハ日本ノ為メニ注意シテ報道スルコトニシマシヨウ松  
其報告ハ則チ政府參酌ノ基本テゴザレハ夫レニ日本ノ為  
メ可然様ニ決心ヲ用テ被下座加貴タハ上海、馬回リニ  
成リマスカ又ハ香港ヨリ直ニ日本、向カレマスカ松上海ハ  
ハ少ク用モゴザレハ回リタクモ思ヒマスレド未タ確ト究リ  
マセヌ香港、着ノ上方向ヲ極メマシヨウ(上海、回ルハ本懐タレバ  
彼レノ定志見ルマ  
故ラニ)加僕シニハ初メテノ事デハアリ且彼地、回レハ自然  
長崎、着日本ノ内地ヲモ多少見ルカ出来マシヨウシ  
家内モ頻リニ上海回リヲ好ミマスカラ彼ノ途ヲ取ルコト決

シマシタ松夫レハ宜シウゴザル然レハ僕シニモゴ同道  
致シマシヨウ加イヤ僕シノ為メデハ甚恐レ入マス松イ  
ヤ先日モほ吐シマス通上海ハ用モゴザル折柄幸ノ  
コトデゴザル加先達テは親切ニ仰セ下サレタ上海船都  
合等ノコトハ初メテノコト不案内ノコトナリ且妻兒モゴザレ  
ハ餘リ宛屈ナラヌ様及タキモノト思ヒマス松イヤ支レ  
ハは彙遣ヒゴザラヌ香港、着シマスレハ直チニ電信ヲ  
以テ何處都合好キ様申遣ワシ成ル丈ケノ是世話ヲ  
為シマス  
其後燕山ニ向ツテ加愈上海回リニ決シタガ二月十六  
日ニハ着スヘキ有ラハークス氏ハ報道シオキタリ氏ハ  
病氣ノ由ナレハ僕着後速ニ歸國ヲ急クナルハシ然  
レハ着後幸便船アレハ着翌日又ハ次日ニモ便次第

發是ノ積リナルモ計ラレス果シテ然ルハ時日遲延  
シテ氏ニ對シテ氣ノ毒ナ困ツタモノヂヤガ香港ヨリ  
有テ電報スミシト映セリ

加我一等書記官ナルモノハ年兩度ノ報告  
政府ニ成スゴデゴザルモオンセリ氏ハ日本會計ノ事ト貿易  
ノ事トヲ報告シ今又僕シハ重ニ工業ノ事ト報告スル心得テ  
ゴザレハ就テ追テ伺タリ存シマス 松イトヲ易トテゴザ  
ル僕シゴ案内シ得ル丈ケハ親ラ有シマシヨウシ又ハ人ヲ  
シテゴ案内申サスルゴザロウシ及フ丈ケハヲ世話申シ  
マシヨウモオンセイ氏ノ時モ成ル丈ケヲ調、用ニ供スル  
椽ニ是世話有シタゴザル因氏ノ言ニ及ニ是用多ク  
折カラ妨ゲ兼ノ毒テゴザルトノ言ナレ氏決シテ左椽テハ

ゴザラコ 僕方デハ少シモ隱隔無キ現實取扱タル其  
傍ヲ取繕ヒモ無ク調、テ上ゲマスカラ傍觀者宜シク  
是非ヲシテ貫ヒタイモノヂヤ又貴タノ椽ニ斯ク追詳密  
ニ是調、被、コソ本意テゴザル 暗澹ニシテ是非ヲ受ル  
ハ好マヌトナガラ詳知シテ是非ヲ受クルハ素ヨリ僕等  
ノ本意テゴザルト申タゴザリマシタ 加ナル程ドウカ  
左椽迄叮嚀ニ及、ホシ被下タト兼リマシタ 加條約改正  
談判ノ事ハ各外國於テ成サル、歟日本於テ成サル、歟又  
外國於テ成サル、ナラバ現在ノ公使等ニ其權ヲ委任  
ナリマスカ又更ニ特派ニ成ル積リテゴザル歟 松僕シニハゴ  
存ジノ通り博覽會ノ事ニ任セラシタルゴニテ右邊ノ事ニ  
ハ一向ニ立障リゴザラヌ殊ニ海外出張以來既ニ時日モ經テゴ  
ザレハ如何ノ議ニ運ビ居ルカ其邊ノ事ハ相分ラヌ何ニ

シロ我政府ハ改正ノ事ハ急キ居ル事故速ニ何レカ相  
運テ申ステゴザロウガ此事ハ即答ハ出来マセヌ其外何  
ナリト存居ル文々ハ咄シ居シマシヨウ  
休暇中内地回覧等ノ咄ノ序 加貴國ハ外國人旅行ガ  
禁シテゴザルカ此改正ノ後ハ解カル、テゴザロウ故  
ラニ可否ヲ答ハス 併シ貴々方ノ旅行セラル、ニハ何様別  
ニ差支ルコトハ一向ニゴザラヌ

數日ヲ經テ横山ニ對シ加ハークス氏ハ日本人ニ對シテハ  
不人望ノ様ニ豫テ聞マスガ實ニソウテゴザル歎ソウナレ  
ハ曾ハ勤ノテ上手ニ人望ヲ取り居ル中央我公使ガ日本  
人ニ望ヲ失フヨウテハ實ニ困ツタモノダカ 横イヤ左  
棟デモゴザルマイ 差障ワラヌ答 加ハアー夫レハ善キコトヲ  
聞ミシタ先ツ夫レテ安心シマス

松方ノ族擧ラ誠ト愛ケ先入主ト成ルノ患有ツテハ善カラ  
ヌトト思ヒ横山ヲシテ左ノ法ヲ成サシメタリ  
貴々様懇切ニ仰ヤ下サル、ニ任セ實ニお明ケテ咄シ居シ  
マシヨウガ先達テハハークス氏ノ事ハ唯々表通りノ様  
擧シマシタガ實ハハークス氏ハ日本人人民ニハ人望ヲ失シ  
テ居リマスル猶モ政府ハモ同ク失シテ居ラル、デアロウト  
思ヒマス鳥渡カヒ插シダ咄シガ先頃郵便條約ノコトデ  
モ獸獵規則ノコトデモ阿片輸入裁判ノコトデモ余リ自  
分勝手ノ計ヒガアルカラ自然人民モ嫌惡ノ念ヲ生シ  
且ツ貴公使ノ處分ハ直接ニ英政府ノ處分ト思ヒ英  
政府ハ日本ニ對シ恣ニ壓抑シ氣休ノ計ヒヲ為スト  
テ英政府ヲ嫌惡スルニナリ自然ノ親和ヲ薄クスルニ  
ニナリマスカラ彼ノ人ハ兩國ノ為テナイト思ヒマス 加夫レ

ハ困ツタモノデゴザル實ハ僕シモ彼レト一所ニ居ルヲ  
好ミマセヌ葉クハ彼レハ早ク歸國シテ貫てタリモノチヤ  
此談話以前加ハバックス氏ハ既ニ久シク東國ニ慣レ  
歐洲ノ禮讓ナルモノヲ忘却スルナラン又此迄ヲ開ク  
ニ臨ミ皇國紀事ノ圖ヲ持来リ加此レハ對馬カ是  
ノ對馬ナルモノハ魯ノ囑目スルモノナラズヤ横彼レ欲  
セザルニ非ラザルベシ併シ日本政府ガ根ニ汲スモノデ  
モアルマイシ亦各國モ黙視許認モセザルニシカ  
島ト唐太交換ハ如何カ日本ノ為ノ大キナ損デハゴ  
ガラマカ横イエ何ニモ圖デ見ル程大小ニ拘ッテ損  
ト云フ訳デモアルマイ尤開幕時分既ニ五十盾ヲ限  
レリ又復政後雜居等ノ事モアリシカ兎角ニ面働  
ナクモ屢有ツタト見ハマス等ノ咄シカラ先般巴露賣

奴件差鏈ニ魯ノ政府中裁シテ日本ヲ助ケ且ツ魯  
ノ公使ハ余程交際其他叮嚀ニシ内實ハ兎モアレ  
親切ニ覺ル等ノ話ニ及ンテバックスノ為人ハ傲濇  
ニシテ人ヲ蔑視シ他ノ國々ハ十年前以前ノ日本ト今日  
ノ日本ト區別シテ交ル意アレハバックス氏ハ尚依然  
ト十年前ノ日本ニ交ル心地アルカ如シ實ニ兩國親  
和ノ為メ悦ハサルヲナリ實ニ吾輩商人ハ魯ヤ其他  
ノ國トハ左程商用ノ關係少ケレハ英國コソ吾輩  
賣買ノ最モ重大ニシテ將來又望アル處ナリ然ルニ  
斯ノ如ク人ノ為メニ人民ノ信望ヲ失シ政府ノ親和ヲ  
為ハスルヲニ望ムハ吾輩商人ハ立ロニ利ヲ失テ業ヲ  
廢スルノ痛傷ニ至ルヲ哀ミマス  
或日序ノ咄ニ加ハバックス氏ノ交リニハ必スアダムス氏ガ来

マシヨウ松夫レ直シウゴザリマシヨウガ貴タ其場ニヲ留リ  
成ツテハ如何<sup>ニ</sup>ゴザリマスガ加イヤ僕共ノ地位ニテハドウ  
モ松既ニ貴タ<sup>ニ</sup>地位ノ公使ト遠隔ナ<sup>リ</sup>テモナシ夫等  
ノ<sup>ハ</sup>誤<sup>ハ</sup>ラレマスマイガ加素ヨリ僕ハ代理公使ニテ答  
リ居ル<sup>コト</sup>ヲ好ミマスガ又アハムス氏来レリトテ僕ニモ兼ン  
テ留リマシヨウ加<sup>モ</sup>オンセイ氏ノ帰國ノ命今少シ邊  
カラシニハ此<sup>ノ</sup>蒞<sup>ハ</sup>バックス氏帰國ノ跡ハ因氏必ス代理公  
使タル處ナラン氏ハ既ニ二年モ在勤シテ居<sup>ル</sup>カラ